

重点取組分野	令和 元 年度		総括	重点取組分野	令和 2 年度		総括	重点取組分野	令和 3 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①生活科・総合的な学習を基盤として、そこで高めた子どもの思いを生かし、横断的に教科等の学習を行っていく。 ②活動を通して、効果的に教科等の身に着ける力を獲得できるように、体験的な活動を多く取り入れる。	①②生活科・総合的な学習を基盤として、豊かな体験を通して育成すべき資質・能力を育てることができた。 一方、教科横断的な学習、子どもが主体となった学習には課題が残るので、今後も単元開発の段階で他教科との関連や、子どもの生活に身近な問題・単元の開発を進めていく。	A	確かな学力	①単元や授業の中での「PDCAサイクル」を大切に、子どもが「何ができるようになったのか。」「次に解決したいことは何か。」を分かるようにし、学習が継続していくようにする。 ②校庭里山を活用したり、地域とつながりた単元開発を進め、学校での学習と生活とのつながりを感じられるようにする。			確かな学力	c1		
豊かな心	①YPAアセスメントを複数回実施し、各学級の実態把握をするともに、学年で共有する時間をとり、より多くの目で児童理解を進める。 ②各教科の中でもより多くの地域の方々とかかわり、生き方や敬知にふれる体験を重ねて、自らの生き方や学び方を深める。	①YPAアセスメントを3回実施し、学級児童の実態把握と指導の改善に努めた。○生活・総合科の学習を中心に地域の方々とかかわり合いながら学習したり、校庭里山を学校全体で作りに活動を行ったりすることで、敬知に触れる体験を重ね、生き方や学び方を深めた。	A	豊かな心	①YPAアセスメントを複数回実施し、各学級の実態把握をするともに、学年、及び学校職員全体で共有する時間をとり、より多くの目で児童理解を進める。 ②各教科の中でもより多くの地域の方々とかかわり、生き方や敬知にふれる体験を重ねて、自らの生き方や学び方を深め、それらを豊かに表現する。			豊かな心	c2		
健やかな体	①「早寝・早起き・朝ごはん」を言葉に規則正しい生活をする姿勢を培い、「なわとび集会」など、楽しく体を動かす活動に取り組む。 ②家庭と連携した食育、歯科保健教育を実施する。また、学校保健委員会では、ノーマディアチャレンジとして、家庭でのメディアとの付き合い方について考える。	①長縄集会に向けて、学級ごとの目標を決めて取り組むことで、体力の向上とともに心の健康も育むことができた。 ②家族みんなでメディアに対してのルールを考えられるプリントを用意し、家庭への発信に重点を置くことができた。学校保健委員会に職員全員が出席し、各クラスに確実に伝えるようにするのはどうかと考えた。	B	健やかな体	①外遊びの充実を目的に、委員会で話し合っって企画を考える。 ②心と身体の健康についての意識を高められるよう、T、Tなども活用しながら保健教育の充実を図るまた、健康的な食生活を意識できるよう、給食を通じた食育の取り組みを行う。			健やかな体	c3		
特別支援教育	①インクルーシブの視点に立って一般級と個別級の連携強化を図る。遠足、学年研や宿泊行事の打合せに個別支援級教師がより深くかかわり、逆交流や休み時間の交流を進める。 ②心サポート・学習サポートに加えて国際教室の学習をチームティーチングで行い、社会的スキルや学習面でのスキルアップを図る。	①週予定立案や行事推進の面で教職員間の共通理解が進んだ。さらに個々の児童にとって自分の居場所と安心とを実感できる環境づくりを進めていく必要がある。 ②国際教室で多文化共生の学習会をもった。さらに児童一人一人の困りに寄り添っていきたい。	B	特別支援教育	①自分の居場所と安心とを個々の児童にとって実感できるように多くの教職員が個々の児童の学習や活動を情報共有できるカルテなどを整備する。 ②国際教室では対象となる子どもたちが、多文化共生の意識をもてるようにするとともに、児童一人一人の困りに寄り添えるようカルテなどを整備する。			特別支援教育	c4		
教育課程・学習指導	①子どもの豊かな体験が基盤となる教育課程をもとに実践を行い、積極的に地域と関わり、関係を広めたり深めたりする。 ②これまで作り上げてきたひまわりカリキュラムを充実させるとともに、SDGsの視点に沿った単元開発を、重点研で研究を進める。	①校庭里山を中心に、栽培活動や自然とふれ合う体験的な活動を大切に授業作りを行ってきた。また地域とかかわりを一貫とまどめ、円滑な引継ぎが行えるようにした。 ②総合を中心に各教科・領域でSDGsの視点をもって授業づくりを行えるよう職員で研修、研究を行った。今後も継続して行っていく。		教育課程・学習指導	①校庭里山を生かした学習や、地域とのかかわりを継続的・系統的に行うことができるよう、カリキュラムの見直し、改善を行っていく。 ②SDGsの視点もった単元開発を行っていくとともに、それぞれの学習で児童が身に付ける力を明確にしたESDの視点を加え、カリキュラム作りを行っていく。			教育課程・学習指導	c5		
地域連携・学校運営協議会	①全教職員と地域交流室メンバーとが一堂に会し、地域でできる学習活動の見直しをもてるようにする。 ②リビングラボ等のワークショップを通して学校と地域の協働を図る。	①一堂に会すのは難しかったが、資料やスクリーンを通して、地域と共に取り組んできた学習活動の紹介をして共通理解を図った。 ②リビングラボの場で、全学年の取組や地域とのつながりの発表するとともに、これからの飯島について意見交換ができた。	A	地域連携・学校運営協議会	①里山ごよみ等を生かしながら、年間を通して地域と協働して体験的な学習活動を継続できるようにする。 ②リビングラボに対する目的を明確にして、地域と学校が連携して飯島の町をより豊かにできるようなビジョンをもち、学校運営に生かしていく。小中連携の下での学校運営協議会をより充実させていく。			地域連携・学校運営協議会	c6		
a14	a22			a14	b7			a14	c7		
a15	a23			a15	b8			a15	c8		
いじめへの対応	①携帯・スマホの安全な使い方やいじめ防止の啓発資料を保護者向けに配布し、学校の取り組みの理解や協力を呼びかけ未然防止に努める。 ②自尊感情や自己有用感を高められるように、「わかる」「できる」授業を目指す。	①誰もが安心して気持ちよく過ごせるように、人権週間の意味を考え、人権標語の作成に各クラスで取り組んだ。スマホ教室を公開授業として行い、児童・保護者用の資料を配布した。 ②学習サポートの充実を図りながら、個に応じた一人ひとりに寄り添った適切な指導に行った。		いじめへの対応	①色々な事情を抱えた児童が多い中で、差別や悲しい思いをしないように、共に生きていく姿勢を高める。②インクルーシブ教育や多文化共生理解などの研修を推進し、職員の意識向上や組織的対応力を高める。 ③道徳の独自教材を開発し、児童にも理解が深まる授業を行う。			いじめへの対応	c9		
人材育成・組織運営(働き方改革)	①児童支援専任を中心に校内・関係機関との連携をもち、子ども理解のための児童支援体制を図る。 ②教科担任制による学年間の情報共有や教材研究の充実、メンターチームによる教師力向上とチーム力のアップを図る。 ③学校ボランティア、外部講師、地域人材・施設等の活用など、地域との連携を深める。	①児童支援専任を中心とした児童へのサポート体制、スクールカウンセラーとの連携などの組織的な児童支援体制を生かして支援にあたった。 ②教科担任制により学年情報の共有化ができた。また、教材研究を深めることにより、授業力を向上することができた。 ③十分な活動ができた。	A	人材育成・組織運営(働き方改革)	b10 ①継続して教科担任制を取り入れ、さらに指導力の向上を図るとともに、教員の時間を子ども達のために有効に使う。そのことが、学年全体で児童への理解を深めることに繋がる。 ②学校ボランティア、外部講師、地域人材・施設等の活用など、地域との連携を深める。			人材育成・組織運営(働き方改革)	c10		
ブロック内評価後の気付き	飯島ブロックでは、管理職間で「9年間で育てる子ども像」の共有を図ると同時に、研究授業・ワークショップを合同で行いながら、各教員間でも共有を図った。地域の特性や課題など共有し、「9年間で育てる子ども像」も徐々に形作られてきた。一方で、小中間の違い(進路、教育内容)などもはっきりしてきている。地域連携や特別支援への重点取り組みは共通しているが、一方で中学校での課題や重点取り組みについては、共通認識が浸透していない部分もある。今後は連携、情報共有、共通認識などを推進し、共有してきた「子ども像」をどう具体化(カリキュラム化)させていくか検討していきたい。			ブロック内評価後の気付き				ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価	総合的な学習の時間、生活科、社会科、学校行事等を通して、子どもたちの飯島小学校やこの地域に対する愛着が強くなっていると感じられる。地域の活動や社協の取り組みを学習と絡めていただいている点も、成果として表れている。また、地域連携の視点から、リビングラボの取組には有効性を感じている。教職員の間でもねらいなどへの理解を一層深めながら継続してほしい。学力の面では、中学校での課題とつながりを太くして、この地域の児童・生徒の課題解決、確かな学力の向上に向け、課題を明らかにし取り組んでほしい。			学校関係者評価				学校関係者評価			
中期取組目標振り返り	ここまでの積み重ねで創り上げた地域・保護者と連携して子どもが伸び伸びと育っていく基盤を今年度は国際目標であるSDGsの実現に向けた教育活動という視点で整理することができた。「校庭里山のたのしい学校Part II」にその成果をまとめ、地域公開授業とリビングラボ(地域と共に考える学校づくり)の研究協議会を開くことができた。特別支援教育では、交流指導、取出し指導、SSTなどの校内指導体制の整備から、教科担任制やユニバーサルデザインの授業づくりの推進、中学校ブロックでの情報共有や学習会の開催など、日常的に充実を図り、地域と共に進めるインクルーシブ教育が一段と推進された。			中期取組目標振り返り				中期取組目標振り返り			